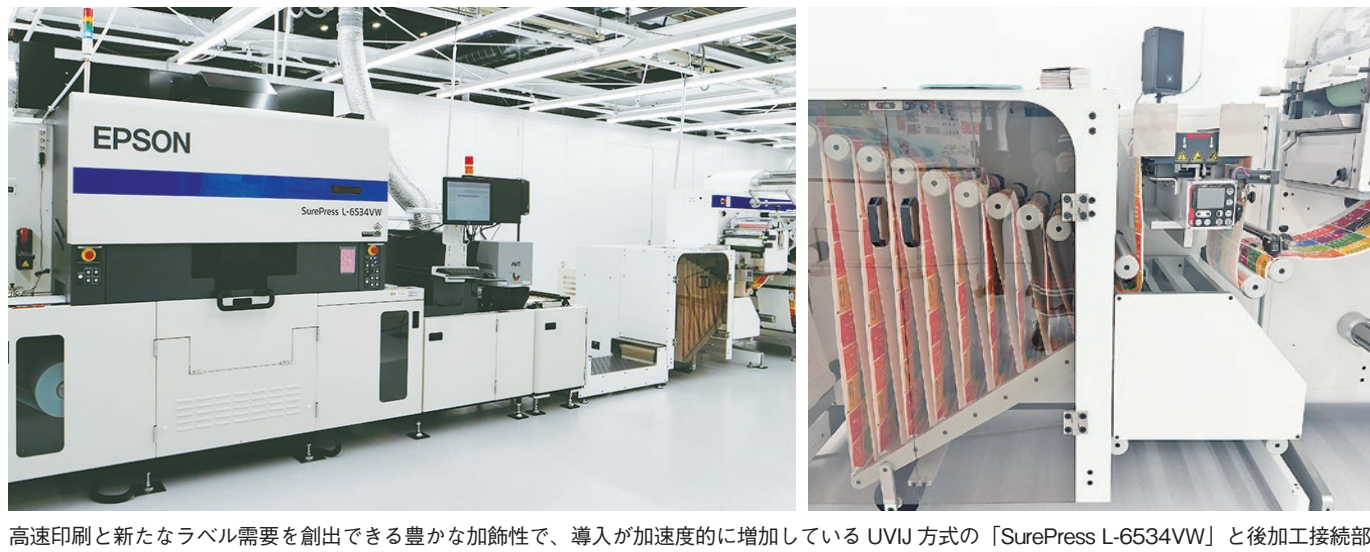




SurePress バリューアップフェア in Nagano

10月18日 セイコーエプソン広丘事業所

エプソン販売(株)は10月18日、セイコーエプソン(株)広丘事業所(長野県塩尻市広丘原新田)で、「SurePress バリューアップフェア in Nagano」を開催した。同イベントには、ラベル・パッケージ印刷会社が参加し、昨今のラベル印刷会社で課題となっている人材不足や若手オペレーターの育成にいかに対応していくかの諸施策が同社から提案。課題解決のための戦略や商品企画の方向性のほか、ラベルショールームでの実機実演により具体的なオペレーションが説明され、参加者の戦略的設備投資の好機となった。

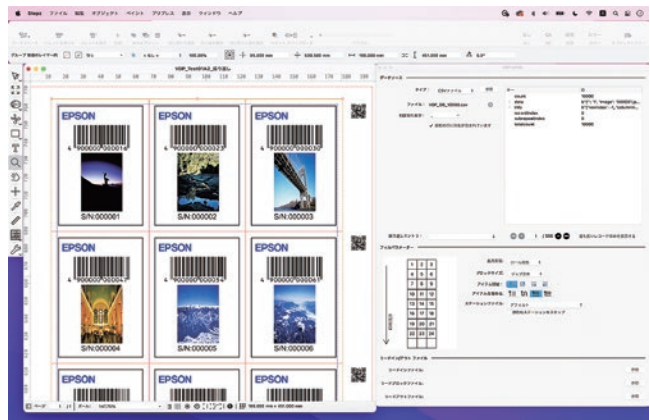


高速印刷と新たなラベル需要を創出できる豊かな加飾性で、導入が加速度的に増加している UVJ 方式の「SurePress L-6534VW」と後加工接続部

ラベルのデジタル印刷最先端技術を披露 「省力化」「効率化」＝「高付加価値創出」を実現

長野・諏訪の地で創業したセイコーエプソン（以下エプソン）は、世界に先駆けた精密技術や製品の数々を生み出し、グローバル企業へと発展してきた。現在まで脈々と受け継がれている“ものづくり”のDNAは、『より効率的に、より小さく、より精密な』を意味する「省、小、精」をコンセプトに、豊富な製品群へと展開されている。

2022年度の売上高は、1兆3,300億円を記録。1兆円超企業への礎となった中核技術が、エプソンの象徴ともいえる「マイクロピエゾインクジェット(IJ)ヘッド」だ。同ヘッド技術は、売上高の約7割を担うプリンティングソリュー



高速・高機能 PDF エディター「STEPZ」で可変印刷も柔軟に

ションズ事業本部が扱うオフィス・ホーム向けプリンタから、商業・産業向け印刷機器まで幅広く活用され、高速・高画質印刷を実現している。

現在のIJヘッドには、第3世代の「PrecisionCore テクノロジー」を採用。ラベル向けデジタル印刷機ではUV方式の「SurePress」に搭載されている。同技術は、薄膜ピエゾのほか、超微細加工が可能な高精度MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)技術、超高精度組立技術など、エプソンが持つさまざまな独自技術を融合させたもの。印刷領域だけでなく、エレクトロニクスやバイオなど新たな分野での可能性も秘める点にインパクトがある。また、技術の中核を成すのが同「マイクロTFPプリントチップ」。ヘッド幅が従来より拡大し、ノズル密度も従来の2倍に。ワンパスで印刷可能な範囲を広げ高速化を実現した。さらに、1つのノズル穴から1秒間に約5万発のインクを正確な位置に必要なだけ吐出可能で、高品質化の向上にも貢献している。

ラベル印刷会社の課題を「SurePress」で解決 エプソンが提案する高付加価値企業への転換

IJ方式のラベル向けデジタル印刷機 SurePress は現在、水性とUVの2タイプをラインアップ。国内のデジタル印

刷機設置台数第1位(ラベル新聞社編「日本のラベル市場2023」より)を誇るエプソンでは、どの分野で採用されるラベルであってもデジタル製造に対応できるよう、万全な体制を敷いている。

4年ぶりのオフライン開催 「SurePress バリューアップフェア」

広丘事業所には、ラベルのショールームが常設。水性IJ機「SurePress L-4733AW」とUV硬化式「同 L-6534VW」の2台が後加工機と接続され、ラベルのデジタル印刷がワンパスで製造可能な状況を確認できる。

10月に開催された同フェアでは、昨今のラベル業界で深刻な課題となっている「オペレーターの人材不足」と「技術承継」にフィーチャー。エプソンが提案するソリューションにより「省力化」「効率化」を実現し、ラベル印刷会社の収益構造改善や提案力の増大が可能に。高付加価値企業への転換が図れるとして、次の3つの提案とデモが展開された。

課題解決① 高速ワンパス製造で「省力化」

SurePress に、パートナー企業のアルテック㈱が販売する Polly Automatic 製高速カッティングプロッター「DG-330」を接続。同ソリューションでは、後加工までワンパス製造することで省力化を実現し、人材難の課題解決が可能になると提案された。デモでは、印刷されたQRコードを読み取り、自動でジョブチェンジを行う様様を実演。デジタル



国内累計100台以上の導入を誇る水性IJ方式「SurePress L-4733AW」。課題の後加工も高速カッティングプロッターの接続で解決

印刷ならではの可変印刷後、抜き加工まで自由自在に高速加工できるように参加者の関心が集まった。CCDカメラによる±0.1mmの高精度な見当システムも紹介され、ラベルの価値向上を実現できる点などが評価。自社の製造体制に則した具体的な質問が飛び交っていた。

課題解決② インライン測色ユニットで「効率化」

SurePress に、測色ユニット「AS-4000」をインラインで搭載。印刷から測色、色合わせまでの工程を完全自動化できるため、難しい色合わせが誰でも容易にでき、生産の効率化を最大限まで引き上げられると説明された。同ユニットは、刷り見本と色見本双方の色合わせに対応。複数台導入で発生する機体ごとの色差も解消できる。会場では、新しい特色調整のカラーコレクションツールにDICとPANTONEのカラーライブラリーガイドが搭載されたことも紹介された。

課題解決③ 可変データの迅速処理で「収益構造改善」

プリプレスでは、HYBRID Software 製のラベルとパッケージ用プリントレディー PDF 構成アプリケーションソフト「STEPZ」のデモを実施。煩雑な可変データ処理を、迅速に行える点が訴求された。可変情報ラベルへの対応で、ラベルや企業の価値は向上するが、同時にDTP部門では高いスキルを持つ人員増が求められる。同ツールは、プリプレス起因の生産遅延や、可変情報処理のハードルを下げる最善策として提案された。

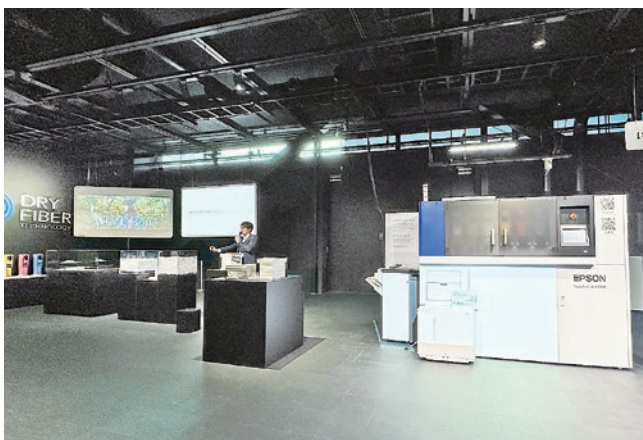


『サスティナブルカンパニー』 世界の地球環境に貢献

自然豊かな地に創業したエプソンは、「地域との共生」を礎に発展。自然を敬う企業風土は、1998年に世界で先駆けて行った「フロンレス宣言」へと引き継がれている。現在は、中核事業に環境ビジネスを据え各プロジェクトを推進し、世界最先端の環境経営企業として、国内および世界市場で広く認知されている。

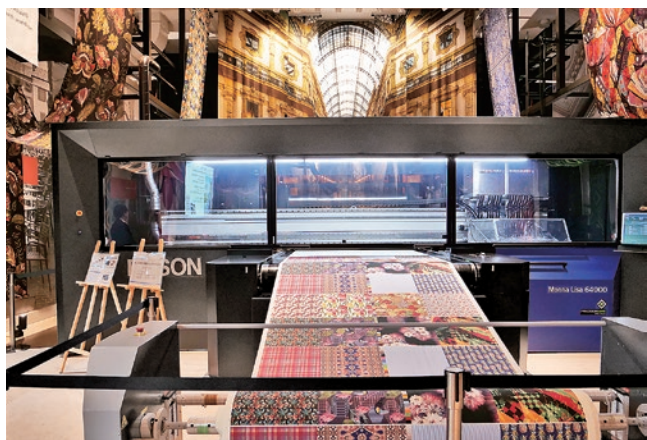
同フェアでは、広丘事業所に常設されている環境対応機器関連の2つのショールームも披露。さらに、ラベル印刷会社の事業領域に隣接するビジネスが展開できるIJPやプリンタ関連のショールーム視察も実施された。

「PaperLab」は、使用済みの紙から大がかりな給排水設備を必要とせず新たな紙へと再生できる乾式オフィス製紙機。地球環境の保全に貢献する画期的マシンとして2016



オフィスでも、使用済み用紙を再生紙へ転換できる「PaperLab」

年の発売以来、官公庁・自治体や多くの企業に導入され、環境循環型社会の実現に向け活用されている。ショールームには、同機から生まれた再生紙で作られたノートや卓上カレンダーなどサンプルも展示。日々紙を扱う印刷会社では環境問題への対応も大きな課題の一つで、新たなビジネスヒントとして関心が集まっていた。



IJ デジタル捺染印刷機「モナリザ」でアパレルのデジタル化を推進

一方、エプソンは、アパレル業界のデジタル化推進にも貢献しており、デジタル捺染の研究開発を推進している。2016年には、20年以上にわたりIJデジタル捺染機を共同開発してきたイタリアの企業をグループ会社に迎え、開発・生産から世界的なサービスサポート網までを整備。国内販売も強化している。



IJP やラベルプリンタのショールームで事業領域拡大の提案も

アパレル業界は従来、衣類の大量生産・廃棄構造のほか、生産時における水の大量使用と汚水排出で、環境面に深刻な課題を抱えてきた。ショールームでは、同社の捺染向けIJPで「環境対応を推進するほか、生産体制や品質も向上。近未来アパレルを創造している」と説明。参加者は、迫力ある機器とディスプレイに感嘆の声を挙げていた。